

# 校友会報

第89号

令和8年3月1日

## INDEX

●ごあいさつ	2
●「郡山市学びと絆寄附金」について	3
●第67回通常総会	4
●第42回「母校を訪ねる会」を開催	4
●母校を訪ねる会 学生の活躍	5
●母校を訪ねる会の様子	6
●母校を訪ねる会に参加して	8
●同窓会	11
●寄稿	12
●支部活動報告	13

●学生募集に協力をお願いします	16
●校友レポート	17
●日本大学工学部が推進する産学官連携活動(9)	20
●若葉マーク	22
●音楽都市こおりやまでの市民活動	22
●校友会NEWS	23
●令和8年度通常総会通知	24
●第43回母校を訪ねる会	24



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページ(校友会について・ニュース・校友会便り・校友会報等)をご覧ください。

## ごあいさつ



校友会会長 城座 隆夫

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は校友会活動に対しましてご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

「校友会報」は年に一度の発刊です。校友会活動を皆様にお知らせする貴重な機会でありますので、ご一読お願い申し上げます。

令和7年4月19日に行われました通常総会では例年の予算組みに加え北桜祭や「母校を訪ねる会」、課外活動、就職支援などを充実させ、学生支援としては「学食の年間米支援」「開講式での新入生と保護者への昼食代」「卒業研究発表会後の懇親会」の予算をご承認頂き、予算執行を進めております。

10月25日(土)26日(日)の2日間行われました北桜祭は、各サークルによる展示や模擬店・音楽祭や芸能祭ほか沢山の企画があり、盛大に行われました。

26日の「母校を訪ねる会」は卒業10年ごとの校友を招いて行いました。昨年度から卒業55年60年の校友も招待したところ、この二期で20名、全体では約160名の参加を頂きました。新たな企画として九州支部から頂いた日本酒と焼酎や宮城県の齋藤正美石巻市長(建築25回卒)のご紹介で購入した笹かまぼこに加え工学部からも提供して頂いた景品を合わせ、名札に入れた番号の中から抽選した番号を会場出口モニターに表示して提供しました。また特別賞としてご夫婦ともに校友の参加者と遠方から出席された九州と北海道の校友に贈呈し、皆さまとの懇談の中、大きな喝采を頂きました。恒例のキャンパスツアーやお茶の接待にも多数の方々に参加されて盛會に終わったことをご報告すると共にご尽力頂いた関係各位に対しまして感謝申し上げます。

校友会は校友との再会と新しい出会いの場を企画し、校友との絆をより深く強くすることが、母校や学生への支援も充実できると考えております。

ご存知の通り少子化の厳しい状況の中、学部的发展は優秀な学生の確保です。

各地域支部活動の支援をはじめ、高校教諭の校友との連携で入学志願者の確保、卒業生の就職先の斡旋などにより学生の入り口から出口までをサポートしております。

是非、皆さま方からの入学希望者の紹介をお願い申し上げます。

我々ができることは母校の誇りを以って社会で活躍し、母校愛を持って絆を深めていくことではないかと思っております。

最後に校友の皆様のご健勝ご活躍を祈念し、今後も工学部校友会に対して変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。



工学部長 根本 修克

令和8年の早春を迎え、校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

近年、日本大学内における不祥事案に関わる法人対応の不利が指摘され、私立大学等経常費補助金減額措置の状況が続いており、校友の皆様には大変なご心配をおかけしていることと存じます。この場をお借りし、改めて、校友の皆様にお詫び申し上げます。

その一方で、令和6年に日本大学は大学基準協会による大学認証評価を受審し、7年ぶりに適合の評価を得ることができました。これは、大貫進一郎学長ならびに林真理子理事長のもとで、日本大学教職員が適正に大学運営にあたっていることが認められた証しでありますので、工学部校友の皆様にもご報告申し上げる次第でございます。

そのような状況下で、工学部は従来通り、教職員が一人丸となって一人ひとりの学生に真摯に向き合いながら、学生の教育・研究および生活を誠意をもってサポートしておりますので、校友の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

工学部では、各学科教員の熱心なご指導のもとで、在学生が数多くの学会で表彰を受けるなどの活躍をしております。また、工学部校友会からご支援を頂いている課外活動においても顕著な活躍をしております。それらの様子は工学部ホームページ上でも紹介しておりますので、校友の皆様にもご覧頂ければ幸いです。

さて、工学部では、20年以上にわたり、「ロハス工学」を基盤とする研究活動を行って参りました。「ロハス工学」を体感できる新しい研究施設であるロハスの森「ホール」が完成したことはご存知の方も多いことと存じます。今後も、ロハス工学センターを基盤とした研究活動をさらに充実させ、工学部の研究基盤である「ロハス工学」に関する研究成果を広く社会に発信して参ります。

結びに、自然災害やコロナ禍などの度重なる苦難を工学部が乗り越えることができたのも、日本大学本部校友会ならびに工学部校友会および他学部校友会、校友会各支部を通しての校友の皆様から頂いた多大なるご支援の賜物と衷心より感謝申し上げます、校友の皆様のご健勝とご活躍ならびに工学部校友会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

ふるさと納税を活用した大学応援「郡山市学びと絆寄附金」の寄附受付を開始しました

～日本大学工学部・大学院も該当、応援お願いします。～



日本大学工学部校友会  
郡山市では2025年11月1日からふるさと納税を活用した大学応援「郡山市学びと絆寄附金」の受付が開始されました。支援先の大学については、郡山市内にキャンパスを有している大学のうち、本制度に参画している大学・短期大学・大学院から選んで寄附をすることができます。(本学を含む)  
校友の皆様、郡山市を通じた日本大学工学部への応援をよろしくご願ひ申し上げます。

郡山市では、大学への安定的な教育研究活動の支援と教育環境の充実及び官学連携強化による地域課題解決の推進を図るため、皆さまからの寄附金（ふるさと納税）を活用し、市内大学が実施する地域貢献活動に対して支援を行います。寄附者の方は支援したい大学を指定して寄附をすることができます。

ふるさと納税制度の適用

「郡山市学びと絆寄附金」はふるさと納税制度の適用対象です。

寄附をしていただいた翌年に確定申告をしていただくことで、所得税及び個人住民税（都道府県民税・市区町村民税）から一定の控除を受けることができます。また、寄附金税額控除に係る申告特例申請書を提出していただくと、確定申告は不要となり、寄附をした翌年度の個人住民税から、所得税控除分と合わせて寄附金控除を受けることができます。

- ・返礼品はありません。
- ・郡山市民の方でも寄附が可能です。

■寄附の申し込み方法について

詳しくは右記QRコードの郡山市公式ページを御覧ください。



学びと絆寄附金紹介ページ

市内大学への支援の仕組み

※郡山市ウェブサイトより

寄附（ふるさと納税）を財源とする大学への支援  
～「郡山市学びと絆寄附金」の受付を11月から開始～

**1 制度の概要** 県内初

大学への安定的な教育研究活動への支援と地域課題解決の推進を図るため、ふるさと納税の制度を活用し、「大学の研究活動への補助制度」を新たに設けます。  
この補助事業の原資とするため、ふるさと納税制度による寄附（郡山市学びと絆寄附金）の受付を令和7年11月1日から開始します。

**2 制度のイメージ**

寄附者

1月～12月  
※令和7年は11月～12月

ふるさと納税による寄附  
(大学を指定)

※返礼品がないため郡山市民も寄附可能

返礼品：なし

郡山市  
市役所

寄附金の一部を  
学術連携や学生活動  
支援事業に活用

寄附額の一部を補助

指定された大学へ  
翌年度補助

大学

地域貢献活動を  
実施  
(補助金を活用)

**●補助対象大学（寄附対象大学）**  
登録申請のあった市内の大学（短大、大学院含む）  
→日本大学工学部、郡山女子大学

**●補助対象事業**

- ①本市又はこおりやま広域圏内（本市を含む事業に限る。以下同じ）の地域課題解決につながる教育及び研究活動
- ②本市又はこおりやま広域圏の住民を対象とした生涯学習事業
- ③その他、本市又はこおりやま広域圏の地域活性化に資する公益的活動と認められる事業

**(期待される効果)**

寄附者	所得税や住民税の控除による税制優遇、大学支援
大学	財源の確保による教育環境の向上や研究活動の充実
郡山市	大学との連携強化、大学の充実による人口流入効果、新たな財源確保の一助

支援先の大学について

郡山市内にキャンパスを有している大学のうち、本制度に参画している以下の大学・短期大学・大学院から選んで寄附をすることができます。

- ・日本大学工学部・大学院
  - ・郡山女子大学・短期大学部・大学院
- (2026年3月1日現在)

お問合せ先

【大学への支援制度について】

郡山市未来創造課学術連携係

電話：024-924-2021

メールアドレス：miraisouzou@city.koriyama.lg.jp

【ふるさと納税について】

郡山市市民税課税務統計係

電話：024-924-2081

メールアドレス：shiminzei@city.koriyama.lg.jp

※郡山市ウェブサイトより

## 令和7年度第67回通常総会



令和7年4月19日(土)、工学部62号館3階大講堂において通常総会が開催されました。議事に先立ち議長に早川辰也氏(土29)、議事録署名人に齋藤義高氏(土50)、書記に佐久間啓氏(機40)をそれぞれ選出しました。承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決されました。

総会後の懇親会は日本大学関係者を始めとした来賓の方々をお迎えし、応援団OBによる演舞も披露され、盛大に行われました。また今回は福島の郷土料理をメニュー

に加え、参加者から大変ご好評をいただきました。卒業生同士の親睦を深めつつ、仕事面の人脈を広げる一面もあります。今後も校友の皆様の多数のご参加をお待ちしております。



### 功労賞受賞者

(敬称略)

支部	氏名	卒科回	活動歴
四国支部	六車 秀世	土16	支部長を歴任

## 第42回「母校を訪ねる会」を開催



令和7年10月26日(日)に第42回母校を訪ねる会が開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、約160名のご参加をいただきました。

今回、新たな催し物として参加者より「夫婦参加賞(校友同士のご結婚の方)」の1組、「遠方賞」の4名それぞれに景品をお渡ししました。また、参加者の名札裏に記載の抽選番号にて当選された60名ほどの皆様にも景品をお持ち帰りいただきました。

この度の景品は齋藤正美様(建25)よりご紹介いただきました株式会社白謙かまぼこ店からの「かまぼこ詰め合わせ」、上田勝九州支部長(土28)及びRFG地域みらいグループ佐嘉酒造株式会社の脇山亨治様(建29)からご提供いただきました「麦焼酎」「純米酒」を、それぞれご用意させていただきました。ご協賛いただき、感謝申し上げます。

また昨年度と同様、懇親会場に株式会社あぶくまビー

ル代表取締役の渡辺潤様(機55)にクラフトビールコーナーを設置いただき、大変なご好評をいただきました。

懇親会ではオープンキャンパス実行員会の学生5名にもご協力いただきました。参加者のなかには現役学生と接することができて嬉しかったとのことのお喜びの聲が上りました。

今後も一層、会が盛り上がるよう様々な企画を考えて参ります。奮ってのご参加をお待ち申し上げております。



## 第42回母校を訪ねる会 学生の活躍

### 母校を訪ねる会「校友茶会」 ～学生5名もお手伝い～

町田 尚輝 (情報2年)



左から 生命4年 古旗 光毅/情報3年 中澤 祐省/機械4年 高山 純哉/  
電機2年 宗像 歩美/情報2年 町田 尚輝

今年度の校友茶会では、体育会および学文連から、計5人の学生とともにOBの方へのお茶出しをいたしました。

私自身、去年に引き続き二度目の参加ではありましたが、前回よりも落ち着いて動くことができ、周囲との連携も円滑に行えたと感じております。また、会の終了後には、私たち係の人間も抹茶とお茶菓子をいただき、心が静まるよ

うな穏やかな時間を過ごしました。

特に印象に残ったのは、片付けの際に伺った「結界」という茶道用語の説明です。単に空間の区切りを示すだけでなく、「死者の世界と現世を結び」という本質的な意味があると教わり、大きな衝撃を受けました。

この経験を通して、茶室という空間が単なる日常の延長ではなく、格式と精神性を宿した特別な場であることを改めて理解いたしました。

私自身も人とのつながりを尊重し、心を通い合わせるという茶の湯における精神を今後の社会生活に活かしてまいります。



### 「母校を訪ねる会」先輩校友との交流を体験して

石川龍之介 (生命応用 修士2年)



左から建築2年佐々木倅汰、生命修士2年石川龍之介、土木3年小松崎諒真、  
機械3年東井わかな、建築2年小川結愛

この度は、オープンキャンパス実行委員として、お料理を提供させていただく形で「母校を訪ねる会」に参加させていただきました。席を回っていて必ず聞こえてくるのは、楽しそうな笑顔で語る思い出話でした。また、校友の皆様とお話し

させていただき、大学の当時と今の違いや歴史、人との繋がりを持つことの大切さをご教授いただけましたことは、とても貴重な経験となりました。

このように大学卒業後も関わる機会があることで、工学部の文化や伝統の継承、人との繋がりが形成され、さらなる大学の発展に繋がるのだと再認識しました。普段から、他学年・他学科の学生との交流はとても大切にしていますが、より一層強めて参ります。そして大学院修了後も、同期や校友の皆様と関わる機会があれば積極的に参加し、その文化を後輩に残せるよう、尽力致します。



### 『校友会キャンパス散歩ツアー』～ガイドを体験して～

西澤 柚輝 (情報4年)

私は、校友会キャンパス散歩ツアーにガイドとして参加し、日本大学工学部の歴史や学びの積み重ねを改めて実感する貴重な機会を得ました。ガイドを務める中で、参加者の方々から、かつてのキャンパスの様子や変遷に関する質問をいただき、現在のキャンパスと過去の様子を結び付けて説明することの大切さを感じました。

校史資料室では、過去の実験器具や写真を通して、先輩方がどのような環境で学び、研究に取り組んできたのかを知ることができました。また、コンクリートの修繕に関する研

究内容が紹介された際には、OBの方から「自分も同様の仕事に携わり、現場で実際に使われている」とのお話を伺い、大学での研究が社会と直結していることを実感しました。世代を超えた交流を通じて、自分もこの工学部の歴史の一部を担っていることを改めて感じ、今後の学修や研究への意欲を新たにしました。



情報4年蛭川 樹唯、情報4年西澤 柚輝



## 母校を訪ねる会



第13・18回卒 集合写真



第23回卒 集合写真

## 母校を訪ねる会



第33回卒 集合写真



第43・53回卒 集合写真

# 母校を訪ねる会に参加して

## 懐かしき思い出

西勝 朝彦 (電気13回卒)

「母校を訪ねる会」に卒業後 60 年目の 13 回卒業生として招待されましたが、我々は皆 80 歳を超えているので体力減退や体調不良等を生じ、参加したくても広い構内移動が儘ならず断念した友人も多数いたことと思う。困みに過去の「母校を訪ねる会」への電気 13 回卒の出席者数を見ると 2005 年 (卒 40 年目) には 31 名、2015 年 (卒 50 年目) に 26 名、今回の 2025 年 (卒 60 年) には私のみの 1 名となってしまう、10 年前までの若さ溢れて楽しかったことが懐かしく思われてならない。なお、今回の 13 回卒出席者は各学科合わせて 8 名 (土木: 4、建築: 1、機械: 1、電気: 1、工化: 1) となり老いの寂しさを感じた。

我々の入学当時のキャンパスは、旧陸軍飛行場の名残を幾分残した広々とした農地に囲まれている中に何棟かの教室用の木造校舎 (旧兵舎) が点在し、鉄筋造りの校舎は僅か一棟だけだったと記憶している。写真 1 はこの屋上からか? 木造大講堂 (A/C 格納庫?) での一風変わった“英国紳士”と言われた岡部管司講師による全学科を集めた法学ノート読取講義があった。その大講堂東側にグライダー部の広いトレーニング敷地があり、片隅に唯一の鉄棒が設置されていたので、休み時間・屋休みに時々ぶら下がり気分転換を図っていた。(写真 2) また、当時の学部祭での仮装行列 (街中行脚) の写真 3 と写真 4 や、開成山にある郡山女子短大生との合同バスツアー (写真 5・写真 6) などを企画し、よく学び・よく遊びを実践した 4 年間だった。

卒業後の学科内まとめ役は主に坂本忠夫代表幹事、本間暁雄事務局長、各地区幹事が協力し楽しく思い出に残る催事を数多く体験させてくれた。本間事務局長には、名簿の修正・補完や恩師の消息等をきめ細かに記録して頂き感謝申し上げます。更に日大電気電子工学科教授の小林力氏には、日大関係の情報はじめ学校とのパイプ役を務めて頂いた。このように一同の協力の下に同級会を長きにわたり継続できたものと思う。

今後、老体に鞭打ち、夫婦どちらかを介護したり、されたりする時 (既に経験) もあり、その他終活 (片付け、遺産相続、遺言、埋葬など...) もやりながら、健康維持に留意し暮らしていきたいと思う今日この頃である。なお、大学の一層の発展を祈念して筆を置きたい。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

## 残り 1 回の母校を訪ねる会

平田 六郎 (建築18回卒)

第 42 回母校を訪ねる会にお招き頂き有難うございました。お陰様で楽しい時間を送ることができました。

私たち 18 期建築学科卒 郡山市在住の仲間と昭和 44 年度卒業のよんよんをもちり酔々 (よいよい) 会を発足させ、節目節目に全国の仲間に連絡して同級会を開いてきました。

昨年は、新潟県出身の山本史郎君の計らいで 5 月 10、11 日 1 泊 2 日の日程で 9 名 (新潟 1、東京 1、仙台 1、松戸 1、郡山 5) 越後田ノ浦温泉『海華亭かわい』にて同級会を行い久しぶりの再会に大変盛り上がりました。帰りに弥彦神社を参拝し、またの再会を約束して帰路につきました。

今回の母校を訪ねる会の前夜祭には 5 名 (東京 1、郡山 4) で山本君より送られてきた新潟の銘酒を飲みながら時間の過ぎるのも忘れるほど楽しい一夜を過ごしました。

当日会場に入ると若い人たちや同級生との再会の笑顔、自信溢れた姿に感動し、改めてパワーをいただきました。

私たちが入学した約 60 年前は桜並木の道路も砂利道で現在の図書館のあたりに木造の学生寮 (北心寮) があり、また、木造校舎も残っていたと記憶しています。

現在のような素晴らしい学園環境、充実した研究施設等々に囲まれて学生生活を送れる後輩たちの益々のご活躍を期待し大なるエールを送りたいと思います。

今回の母校を訪ねる会には、13 期生 8 名、18 期生 12 名が出席されました。次回 5 年後には今年以上の参加者を期待し、私は趣味のゴルフを年間 100 ラウンドを目標にしっかりと健康管理を行っていきたくて考えております。

最後になりましたが、日本大学工学部、日本大学工学部校友会、並びに役員の皆様方、在校生の方々に大変お世話になり有難う御座いました。

また今後のご発展とご活躍を期待申し上げます。



## 半世紀ぶりに母校を訪ねて

小林 俊雄 (機械23回卒)

10年ほど前に神奈川県校友会に参加したときに、俊英学寮で同寮生だった石丸氏と再会し、これが卒業50年後の母校を訪ねる会への参加のきっかけとなった。卒業後50年も経過すれば出席者も少なく、知人との再会は無理と思っていたが俊英学寮の同寮生だった高橋氏と再会でき嬉しかった。ちなみに機械23回卒の出席者は17名、名前に覚えがあったが顔と一致する人は数人程度だった。私は一人での参加だが参加者の殆どはグループ参加だった。再会を果たした高橋氏と共通の知人の消息や仕事の話をしていると時間があつという間に過ぎ閉会となった。その後、建て替わった俊英学寮を見に行ったが当時の面影は全くなく、高級マンションのようであった。母校を訪ねる会の前日開催された校友会散歩ツアーに参加し、校友と在学生の案内で校内巡りを楽しんだ。散歩ツアーは、研究室巡り、在学生の研究発表の見学等盛沢山の内容で、広いキャンパスを迷わないように移動するのが大変であった。先生や在学生の皆さんが研究内容を分かり易く説明して下さいたことにお礼を申し上げます。校友会散歩ツアーでは初めて会った33回卒の校友と知り合えて気楽に話げできたことが嬉しかった。私は、造船所での仕事に興味を持ち広島県沼隈郡(現福山市)にある造船所で社会人をスタートし、その後特許事務所に転職し、現在は弁理士業を営んでいる。造船所で担当した軸系設計では卒研でご指導下さった渡部弘一先生から学んだ振動工学が大いに役立ち、また文献などが少ない振動を利用した装置発明の原理を理解し発明者と議論する上で振動工学は欠かせないものだった。数年前から必要に迫られて三次元CADを始めたが、毎日使わないと操作方法を忘れてしまう。ポケ防止のためには良いのではないかと思う。次は3次元プリンターに挑戦し、特許出願依頼のあった発明製品の製造を夢見ている。



## 母校を訪ねる会に参加して

田口 克也 (電気33回卒)

今回母校を訪ねる会と前日に開催された校友会キャンパス散歩ツアーに参加した。令和7年10月25日、約10年ぶりに母校である日大工学部の地を訪れた。約10年ぶりと言うのは、前回の母校を訪ねる会に参加したからだ。卒業年度によって10年毎に開催されている会である。久しぶりの郡山は、どうなっているのか?日大は、どう変わっているのだからか?懐かしさと驚きを期待して、当日朝、車で向かった。

何か母校へ向かうとなると学生に戻った様な妙なときめきにも似た気持ちになって、それがまた新鮮だった。お昼前に母校近くに到着し、早速萬寿園に行き同期である友人をそこで待たせた。学生の時に良く通った中華料理店だ。日大の学生は、皆良く知っている所だと思う。当時の大好物の回鍋肉を注文し、学生時代を思い出しながら、昔ながらの味を堪能した。

同期の佐藤(旧姓門馬)孝直君と合流し、早速校友会キャンパス散歩ツアーに参加した。あいにくの雨だったが、校内の資料館や研究室などを案内していただきながら昔を思い出す。ちょうど北桜祭も開催されており、学生の姿を見ながら私も学生の時は、あんな感じだったのかなあと思いながら、文化祭も楽しませてもらった。

私は、1回生の時は、日大校内にある俊英学寮に入寮しており寮にも足を運んでみたが、だいぶ昔の寮とは違っていた。当時寮は、A館からD館にわかれており、私はC館で毎日、朝礼点呼、夜の門限と完全に管理された生活ではあったが、共同生活(一部屋2名、食事会場、大浴場)は、それなりに楽しく今でも寮長の笑顔が浮かんでくるくらいです。

次の日は、母校を訪ねる会が開催され卒業期毎の記念撮影や懇親会が予定されていた。10年ぶりの再会、卒業以来会っていなかった同期との再会など、この会に出席しないと味わえない素晴らしいことが数多くあって、とても感慨深いものになった(10年に1度の会ですので、今まで出席された事が無い方は、是非参加してみてください、きっと良い事がありますよ)。懇親会は、あつという間に終わってしまった印象で楽しい時間、思い出を語る時間、なんといつても日大の友人に会える時間であった。人生で色々な友人関係が作られると思うが、小中高校とは、一味違った全国区の幅の広い友人が大学では出来る。こういった母校を訪ねる会にどんどん参加してその全国区の友人とのその繋がりをなくさない様、再会出来るチャンスを自ら掴んでいきたいと思う。

今回、母校を訪ねる会に参加してくれた同期の佐藤君、川崎君、伊藤君、黒河君をはじめ日大工学部33回卒の輪をもっともつと広げていきたい。

最後に、今回も母校を訪ねる会を企画運営していただいた日大校友会事務局の皆様へ感謝を申し上げ、また10年後に必ず母校を訪ねることを誓いの言葉として締めさせていただきます。



## 30年ぶりに会うまで

青木 貞幸 (土木43回卒)

卒業してから30年。仕事に追われてきた日々からようやく自分で都合が付けられる歳、そして健康なうちに…。

そんな思いから、学生時代に親交のあった旧友に連絡をとることから始まった。

連絡をとるのも簡単ではなかった。

年1回の年賀ハガキのやりとりのみ。しかも、近年その年賀ハガキのやりとりもはばかれる時代。電話番号も、メールアドレスもわからない。FacebookやXで名前を検索してもヒットせず。

年賀ハガキの住所を頼りに、誘いのハガキを出した。

出したうち全員ではなかったが、返事が返ってきた。電話をくれた旧友と話したときは、ドキドキした。手に汗もかいていた。聞こえる声はあのかのときのままであった。

そして、今回のキャンパスツアー、母校を訪ねる会に向けてグループLINEを立ち上げた。ハガキを出した10人のうち6人で。

その後、参加できない旧友とも連絡がとれた。

そして当日。

25日に旧友に郡山駅まで迎えに来てくれる約束をしていた。東口に向う通路ですれ違いそうになったが、直前でア！とお互い気づき、懐かしくて、うれしくて、手を握り合っていた。歳はくったが、みんなの顔は自分の記憶に残っていた。

25日は私を含め4人でキャンパスツアーに参加した。

新しい施設も増えたが、あの時の面影が脳裏にラップしていた。とても懐かしかった。

その夜は、2人加わり6人で、旧友が予約した店で食事をした。昔話に花が咲いた。今回参加できなかった旧友にも電話した。当時夢中になっていたビリヤードにも行った。

30年も経つのに、話すことは当時のまんま。共にいる安心感。会えたことがとてもうれしかった。

翌日、母校を訪ねる会には多くの参加者がいた。先輩たちがたくさんいて驚いた。

当初、この催しに参加しようと思ったきっかけが、先輩たちから見れば「まだまだ若いな」と言われそうな気がした。

参加者には同じ卒回生も多く参加していた。同じ気持ちで参加したのかな？と勝手に思った。

おいしい食事、おいしいお酒を用意していただいて大変感謝しております。

そして、準備される方も大変だったと思います。ありがとうございます。

恥ずかしげもなく校歌を歌い、会が終わった後、またあの時のように、明日もここに来るような感じで「バイバイ。じゃあね。元気でね。とお別れをしました。



## 10年後はぜひ参加してみたいかがでしょう

吉澤美由紀(旧姓 國分)・吉澤弘貴(物化53回卒)

卒業して20年が経過したことに懐かしく思い、家族5人で母校を訪ねる会に参加をしました。夫婦で参加したことから懇談の中でステージに立ち、夫婦であいさつをして仙台名物笹かまや日本酒をありがたくいただきました。また、この原稿執筆を頼まれた次第です。

私たち夫婦は、物質化学工学科53回生(平成13年入学)の

同級生で、吉川義雄先生の研究室卒業になります。私は、地元福島出身で隣の日大東北高校から工学部に入学しました。入学理由は、高校時代に化学が好きだったこと、両親が一人娘の私に福島にいてほしいと工学部をすすめられたことです。しかし、山梨県出身の夫と縁があり、結婚することになりました。現在は山梨県に家を構え、3人の子育てと仕事に追われながら毎日バタバタと生活しております。

大学卒業後、自分が過ごしてきた学生生活を振りかえると、学校が好きだったことに気づき、働きながら二か所の大学の通信教育学部を経て小学校と特別支援学校の教員免許を取りました。

私は、大学で学んだ化学を主とした仕事ではなく、特別支援学校に教諭として勤めています。唯一、化学を学んだ証明として、危険物取扱者甲種を取得したことです。時々、勤務校に免許者不在の年は危険物保安監督者の業務もしています。

大学時代には、物質化学工学科の講義だけでなく、1年次には土木工学科での中村玄正先生の水質に関する講義、総合学科の和田勝先生から太極拳とカイロプラクティックの講義、3年次には電気電子工学科の尾股定夫先生・村山嘉延先生の研究室の手術室での豚の解剖実験など他学科での講義を体験することができました。4年次の研究室では、研究室での芋煮会、せんべい汁作りなど日々のたわいもない交流が楽しく思い出として刻まれています。また赤十字奉仕団でのボランティア活動も大きな経験でした。物質化学工学科をはじめ他学科での知識・体験、コミュニケーションを得られたことが私の糧になったと思っています。

母校を訪ねる会では、同級生と話し込んだハットNEの大食堂での懇親会のおいしい食事をいただきました。あいにくの空模様で、北桜祭のメインストリートに行けませんでした。我が子に、私たちが過ごした大学を見せられたことはよかったと思います。

また、当時、阿武隈川を渡るには安積永盛駅前の狭い永徳橋と国道49号線でしたが、笹川大善寺線という立派な道が開通され、近隣も整備されていました。夫の住んでいたアパートも20年たった今も健在していたのには驚きました。

平成の時代を思い起こしてくれた今回の母校を訪ねる会で、令和の工学部の先生方や後輩たちの活躍も感じることができました。



電気電子工学科(尾股先生)での解剖実験  
上の写真:カメラ目線が私  
下の写真:横向きが私  
両写真とも執刀しているのは獣医



芋煮会の写真  
セラミック材料研究室の芋煮会  
中央が吉川先生  
しゃもじで混ぜているのが夫  
背を向けているのが私

卒論発表会の写真  
左ピースサインが私  
女性ピースサインの間が夫

## 「けやき荘を偲ぶ会」を開催して

多胡 稔 (土木25回卒)

昭和49年4月新築され、平成23年震災の影響で閉鎖された「けやき荘」を偲ぶ会が群馬県伊香保温泉で令和7年10月26日に盛大に開催されました。



参加者は昭和49年～55年頃に入居し、連絡のとれたメンバーと大家さんであった館さん夫妻で集まることができました。大家さんも当時の学生と年齢の差が無かったことで元気に参加して頂けたのではと思います。当時の面影は勿論のこと学生だった私たちより若いのではと思えるほどに健康で顔色も良く元気な様子を見られることができました。



森秋旅館



大家さん：館栄義夫妻

7、8年程前から集まる計画を練っていたのですが、コロナ禍の影響もありましてやっとのことで開催できたというのが実情でありました。震災で閉鎖され更に水害に見舞われたということで建物全体を取り壊さなければならなかったのは寂しい限りのことでもあります。

そのような中で新築当時に大家さんが作ってくれた「けやき荘の旗」については、辛うじて高所に保管されていたそうで今回の会に持参して頂け、記念の写真撮影に大きな花となりました。

当時の下宿メンバーで行った遠足に大家さんが作ってくれたおにぎりと一緒に持参したり、下宿の歓迎会や卒業祝いの会に掲げたりした貴重な旗で、他の資料が流された中で奇跡的な出来事でもあります。

当時の学生においては各自が个性的で印象が強く、全員の顔と名前を記憶して頂けたということが何よりの嬉しい出来事でありました。大家さん曰く「運動部の学生が多く下宿の遥か向こうから大声での挨拶が朝から晩まで鳴り響いていた。初めての下宿経営に不安と驚きの毎日で始まったが、あの頃の学生たちが一番懐かしく記憶に強く忘れられないでいる」と言っていました。

最後に残念ながら欠席連絡のあったメンバーの理由をあげますと、老々介護・本人やパートナーの健康状態に問題があるということでした。それとこの集まりに伴って頂いた奥様方に深く深く感謝いたします。

## 「九機有志の会」・令和7年の集い

奈良 俊勝 (機械9回卒)

「九機有志の会」とは、昭和35年度(第九回)機械工学科卒業生の有志が、これまでは「母校を訪ねる会」に併せて開催していましたが、今後とも継続的に開催して親睦を深め、再会・再々会を果たして行きたいとの一念から、「九機有志の会」と命名し発足したものです。

最初の頃は郡山での開催でしたが、その後は東京、熱海、川越などと開催場所を変えての行事となり、令和7年の集いは、令和元年開催後に新型コロナウイルス騒動により中断を余儀なくされていたので、約6年振りとなる横浜での開催がありました。

長い中断後のこと故に、まず心配したのは既に皆の年齢が86、87歳以上の後期高齢者であり、特に遠方からの同期生には、自分一人で他人の助けなしに元気な姿で来られるだろうか、また、出席者数については4人の幹事以外に1人でも出席希望者があれば、開催を実行しようと決めて開催案内状を送付していました。

その結果、幹事を含めて10名の出席となったので、幹事一同ほっと安堵しました。前回開催時と比較して出席者は半減しましたが、遠くは名古屋、郡山からの出席者がいて、安全を考えての行動から妻の同伴あり、また、娘を見守り役に親子同伴など、夫婦、親子の強い絆に支えられてのこれら出席者に対して、拍手を以って迎えました。

出席者10名での開催はこれまでの最小であり、最盛期には40名近いこともありましたが、平均としては20名前後での開催が多く、高齢化に反比例して出席者が減少する傾向になるのには納得する以外ないと思います。

宴会の進行は略常態化して、まず前回開催時から物故者となられた方の氏名を読み上げて、恩師・旧友の御霊に黙とうを捧げることから始まり、乾杯の音頭に続いての懇談の場では各人の近況報告があり、別途取りまとめた配布した欠席者からの近況報告や学生当時の大学や街での、寮や下宿等々での出来事が相まっての話に花が咲き、大いに盛り上がるのは毎度ながらの光景でした。そして、一次会を終えて宴会場から別室に場所を変えての二次会も定番になっていました。

還暦や古希、喜寿などの人生の節目、節目に合わせて開催してきた「九機有志の会」ですが、これからの開催がまさに岐路に立っています。後期高齢者の開催には各人の健康問題が最重要課題であるので、各人達の意見を聞くためのアンケート調査や幹事会での検討も重要であり、米寿や卒寿は目前のこと故に慎重に扱う必要があると思います。

令和7年の横浜での集いが、今後開催のヒントになれば幸いに存じます。





## 我が青春の郡山

臼井 俊夫 (機械 20 回卒)

春の哀愁も憂いも素晴らしさも郡山にあった。

### 国鉄郡山駅周辺

1968 年入学式当日、前日から郡山に来ていた私は学校で紹介された下宿から国鉄郡山駅まで母を迎えに行った。当日は晴れてはいたが雪も舞っていて、宇都宮とは少し違う気候、風景が駅周辺には広がっていた。



提供：郡山市

それから何年か経ち、今度は宇都宮から来る彼女を迎えに行った事がある。当時郡山駅は、乗り口は駅舎内、降り口は向かって左の外部にあった。連絡橋の階段から、彼女が手を振って降りて来るのを見るのが好きだった。しかしその年の年末、彼女が予定時間に来ない時があった。携帯電話等ない時代 2 時間近く待ったが姿は見え、駅の伝言板に言葉を残し不安な気持ちでアパートに戻ったことがある。

駅周辺には名曲喫茶の「白十字」、ままだおの「三万石不二家」、そして駅前アーケードにはパチンコや飲食店が並んでいた。その中の「東北書店」では教科書、参考書を始め沢山の本を購入した。最初は講義で興味湧いた岩波日本古典文学大系の「源氏物語」を数冊購入した。日大紛争が激化した頃には羽仁五郎「都市の倫理」や朝日ジャーナルも購入した。「五木寛之」の本に特に興味があり新刊が出ると購入し下宿で読んでいた。駅から少し離れたところには、卒研仲間と頻りに通った喫茶店「ループル」があった。何時間も音楽を聴きながら、駄弁っていた思い出が懐かしい。

### うすい百貨店近辺

自分と同じ名前の百貨店が郡山にあると解ったとき、本当に嬉しかった。江戸時代に物産問屋として創業し、戦前には百貨店となったのである。その後は丸伊デパートを買収して「第 2 うすい」が出来て増床すると、「第 1 うすい」はお惣菜や日用品、「第 2 うすい」は紳士婦人服や化粧品等、若者が興味のあるものも多く置いていた。よって第 2 は、小遣いの少ない貧乏学生には目の毒だった。だからいつも第 2 で目の保養をし、第 1 で夕食や休日の食事も惣菜を買うことにしていた。2 年生の時には隣にイトーヨーカドーが出来、その中に出店したヴァンジャケット (VAN JACKET INC.) には凄く興味をそそられ、ウィンドウショッピングには何回も行った。



提供：郡山市

また第一うすいの並びを南下した角に化粧品店(マックスファクターや資生堂を販売)があった。その 2 階が喫茶店「 ? 」(名前が思い出せない)、1 階の綺麗な女性なども来る郡山でも最も雰囲気のある店があった。親友が特に気に入っていて、良く長居した記憶がある。「太田総合病院」も近くで病院関係者も多かった。

### 開成山公園と古いアパート

郡山市は公園の多い街である。開成山公園始め水辺がある静かな公園が多数あり、桜の季節は壮観であった。3、4 年生の時は弟と一緒に菜根 1 丁目の古いアパートに住んでいた。このアパートは、写真部の先輩が卒業するので譲って貰った所である。私はこのアパートを凄く気に入っていた。開成山公園、酒蓋公園、荒池公園などが近くにあり、銭湯や惣菜店も側にあった。市街地にもさほど遠くなく、朝夕の散歩や気晴らしには最高であった。1 階 2 階とも 5 ずつ部屋がありトイレは共同で各階に 1 カ所ずつ、勿論風呂はない。生け花の先生をしている方がオーナーで息子さんと娘さんと一緒に暮らしていた。



提供：郡山市



2018 年再度訪問してみると驚いたことに、そのアパートは 50 年以上経過しているにも関わらず現存していた。現在は誰も住んでいない様子であるが。

### 学園紛争と雄三くん

私達が入学した昭和 43 年はアメリカでは 4 月にキング牧師、6 月にはロバート・ケネディ暗殺事件、そしてベトナム戦争が激化していた時だった。



日本大学工学部物語より

入学して間もなく「日大の 20 億円使途不明金」の報道が行われ、日大紛争の引き金となった。工学部においても学園民主化や会頭や理事の総退陣を要求して、学内は騒然としていた。やがて学生自治委員会も工闘委(工学部闘争委員会)と変貌し、各科各クラスにも代表を出すようオルグがあった。

その時オルグに来た大塚規雄委員長は「皆さんは入学したばかりで良くわからないと思うが、私達は日大がより民主化され開かれた大学になることを望んでいる。皆さんに無理は言わないが協力してほしい」と言われた。そこで手を上げてクラスの代表になった学生が雄三くんだった。彼は何を隠そう私と同じ下宿、同じ部屋に住んでいた。埼玉県出身で勉強も良く出来、特に英語が得意で発音やスペルを良く教えて貰った。真面目な彼は工闘委とクラスの連絡役になった。やがて闘争が激しくなると、下宿にも帰って来なくなり授業にも出て来なかった。

闘争は更に激化して 9 月を過ぎる頃には全学がスト突入になり、工学部校舎もバリケードが設けられた。学内での授業は出来なくなり、開成山公園近くの熱田屋旅館などで授業を受けた。年が明け 2 月には教授会や学生の努力、警察の協力により校舎は開放された。

しかし私の胸の内は依然としてモヤモヤの中にあっただ。彼が気がかりで、郡山市公会堂や福島公会堂などで行われた日大闘争の報告集会や「ベ平連」の講演会などに出かけたが会えなかった。下宿でも雄三くんの荷物は両親が引き取りに来られ、部屋はがらんとしていた。私も何となく居づらくなり、学校近くの別の大人数の下宿に引っ越した。

工闘委の大塚規雄委員長はその後退学し明治大学生協に勤め、日大全共闘の秋田明大議長は故郷に戻り自動車整備工場を営んでいると聞いている。雄三くんもその後何処かで、健康で元気に暮らしている事を願うばかりである。

## 北海道支部

北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9  
 (株)横関工業内 ☎011-831-6851



● **支部長**  
**横関 一伸** (建築 25 回卒)

● **今年度の活動結果**

北海道支部では、昨年8月22日に工学部北海道支部総会がコロナ明け初めて、工科系4学部合同の桜工会が開かれる前に、工学部校友会を開きました。20数名参加され工学部の支部活動を報告し、城座会長からは、これからも桜工会総会に合わせて、支部総会を

行ってはとの提案も受けました。今後の活動については、今年2月には役員会を開き、今年の活動について相談したいと思えます。

毎年の北海道からの工学部への入学者が少なく、卒業生が、北海道に帰ってくる人もなく北海道支部の存続も危ぶまれますが、現在の卒業生の安否確認及び令和8年度は工学部北海道支部の同窓会総会及び懇親会に、地方支会の方々が参加できるように行いたいと思います。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。



桜工会総会・懇親会

## 北陸支部

新潟県新潟市秋葉区川口578-26  
 (株)八重電業社内 ☎0250-22-3131



● **役員**

顧問	鈴木 隆	(建築14)
顧問	笠井 隆	(建築17)
顧問	岩名 涼	(土木22)
常勤顧問	山本 久	(土木31)
支部長	小川 邦之	(電気30)
副支部長	国原 重昭	(建築30)
事務局長	森山 良	(土木30)
事務局次長	本間 豊	(土木36)
幹事	小池 国義	(建築23)
幹事	田邊 篤	(電気20)
幹事	頭川 弘	(土木31)
幹事	松村 浩貴	(建築47)
幹事	根本 晋哉	(土木48)
会計	小林 一成	(建築33)
事務局	山川 研	(建築61)
事務局	長沼 宏武	(土木62)
事務局	海津 稜希	(建築67)

● **支部長**  
**小川 邦之**  
 (電気 30 回卒)

昨年度に引き続き、1名の若手役員が事務局として、加えて新幹事も1名新規登録となり、1名の事務局担当者が退任となったが計1名の増員となった。昨年度に引き続き新規及び若手の登録が続いており、役員若返り・増員が進んでいる。

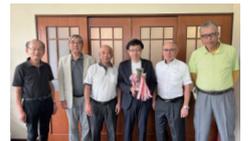
● **今年度の活動結果**

- 4/19 工学部校友会通常総会(小川支部長出席)
- 5/8 新潟桜門会役員会 イタリア軒(田邊幹事出席)
- 5/16 第49回役員会  
 当年度通常総会の開催等について協議
- 6/7 新潟桜門会総会  
 イタリア軒(小川支部長、小林会計出席)
- 7/26 工学部校友会北陸支部  
 第23回定期総会・懇親会 新潟東映ホテル  
 来賓 日本大学工学部校友会 城座会長  
 アカシア教育研究会  
 横尾支部長代理 寺澤様  
 定時総会・懇親会参加者 38名
- 10/4 工学部校友会北陸支部 懇親ゴルフコンペ開催  
 新津カントリークラブ 6名参加  
 優勝 古澤 聡(42回 建築卒)
- 11/26 新潟桜門会役員会・交流会  
 ジョイアミーア(小川支部長、田邊幹事出席)

● **次年度抱負(若手校友参加へのアプローチ)**

今年度に引き続き、以下の各種会合・イベントを開催・出席の予定

1. 校友会本部等の交流
  - ①定時総会(懇親会)
  - ②工学部校友会通常総会
  - ③母校を訪ねる会 ※今年度、役員参加無し
  - ④桜門会新潟県支部等との各種会合
2. 北陸支部の会合・懇親会等
  - ①役員会(定時総会打ち合わせ、会計報告)及び懇親会
  - ②懇親ゴルフコンペの開催
3. 若手会員の新規役員登用  
 引き続き、若手校友会会員の新規役員登用を図り、校友会北陸支部の活性化を進めていきたい。  
 若手主体の役員会により、各種行事や定時総会(懇親会)の充実や新たな同窓生の連携を図る。
4. 大学・高校・官民連携事業推進事業の推進  
 意欲ある高校生を母校に進学させ、さらに卒業後は地元に戻り、地域活性化に貢献してもらうことを目的とし、昨年度初めて連携事業推進に向けてのキックオフ会が開催された。  
 今年度の開催についてはまだ動きは無いが、案内があれば参加を検討する。



ゴルフコンペ



懇親会



総会集合写真



懇親会小川支部長挨拶



懇親会城座会長挨拶



総会城座会長挨拶



総会寺澤先生挨拶

## 関東支部

神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1-4-822  
☎045-546-2647



● 支部長  
小林 啓一  
(土木 20 回卒)

### 関東支部

事務局長  
松尾 清志  
(土木 29)

東京都 校友会	会 長 山本 健史 (建築 37) 事務局長 松崎 信一 (建築 29)
千葉県 校友会	会 長 藍郷黎治郎 (土木 14) 事務局長 松尾 清志 (土木 29)
神奈川県 校友会	会 長 早川 辰也 (土木 29) 事務局長 三枝 良彦 (土木 31)
栃木県 校友会	会 長 星野 光利 (土木 33) 事務局長 篠崎 淳 (土木 36)
群馬県 校友会	連絡責任者 福井 清 (土木 14)
埼玉県 校友会	会 長 永田正一郎 (土木 21) 幹事長 村井 健一 (土木 29)
茨城県 校友会	連絡責任者 穴戸 薫 (土木 13)
山梨県 校友会	連絡責任者 正木 徳栄 (土木 47)
長野県 校友会	会 長 原 健二 (土木 22) 事務局長 綿貫 明 (土木 35)

関東支部の組織は、関東支部の下位に1都8県（東京都、千葉県、神奈川県、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、山梨県、長野県）の校友会で構成されております。

### ●今年度の活動結果

今年度は8月に関東支部総会を開催し、活動報告・会計報告に加え、各支部への活動援助金をお渡ししました。懇親会では久しぶりの再会を喜び合い、各県校友会役員の皆さまと和やかに交流を深めることができました。また、埼玉・栃木・長野の各県校友会総会も開催し、それぞれの地域で親睦を深める良い機会となりました。新春の箱根駅伝では、神奈川県校友会の有志とともに応援旗を掲げ、母校の力走にエールを送る温かな時間を共有しました。



栃木県総会 (11月)



長野県総会 (11月)

### ●次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)

関東支部では、例年どおり新年度の総会をはじめ、各県校友会でも役員会や総会を計画的に進めてまいります。次年度は、より多くの校友の皆さま、特に若い世代の方々が参加しやすいよう、都心での近県合同による総会・懇親会の開催も検討しております。世代を超えて気軽に集える場づくりを進め、校友同士のつながりが一層広がることを願っております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

### ●学生支援策のご提案

#### (学生のため支部として可能な支援策・アイディア等)

関東支部としては、母校の活性化と学生支援のため、校友とのつながりを活かした取り組みを進めてまいりたいと考えております。具体的には、校友によるキャリア相談会やOB・OG 座談会の開催、インターンシップ受け入れ先の紹介など、学生が社会を身近に感じられる機会づくりを検討しています。また、首都圏在住の校友による生活面の相談窓口や、地域交流イベントへの招待など、学生が安心して学べる環境づくりにも取り組んでまいりたいと考えております。未来の校友である学生を支えることが、支部の大切な役割だと考えております。

## 東海支部

愛知県名古屋市北区志賀本通2-46  
新晃コンサルタント(株)内 ☎052-911-1286(近隣)



● 支部長  
近藤 直幸 (土木 28 回卒)

### ●今年度の活動結果

東海支部の令和7年度の活動は、支部総会(第45回)を令和7年8月22日に名古屋東急ホテルにおいて23名の参加で開催しました。来賓として大学から根本修克学部長、本部より柳沼由美子校友会副会長に出席を賜り工学部および校友会の近況報告をして頂きました。引き続き東海支部事務局長より昨年度の活動報告、会計報告等を行い、無事に承認され総会は終了しました。本年度の講演会は、苅田修一様(三重大学名誉教授)にお願いし「発酵と健康」をテーマに約1時間ご講演いただきました。アルコール飲料や納豆、ヨーグルトなどの食品は微生物の発酵によって造られていることについて

実例を交えてユニークに講演していただき、講演会のあとの懇親会でも談笑の中で日本酒に関する話に皆が興味深々と拝聴していました。12月5日には、忘年会を11名ほどで開催しました。年々参加者が減少傾向にあるため、来年は若い校友の皆様にも気軽に参加して先輩後輩の親睦を深められるような魅力ある会になるよう取り組んでいきたいと考えています。校友皆様の益々のご健勝を祈念いたします。



東海支部講演会風景

## 東東海支部

静岡県焼津市本中根485-5  
☎080-1626-6412(永田)



### ● 支部長

酒井 浩行 (土木 36 回卒)

### ● 役員

副支部長 杉山 哲也(建築40)  
副支部長 河野 昌行(建築42)

### ● 今年度の活動報告

- 就職ガイダンス (於：日本大学工学部)  
校友が在籍する静岡県内企業・官公庁により開催 (計6回、延べ143名の学生が参加)
- 高校生向け進学説明会 (於：静岡県内工業高校)  
島田工業高校、掛川工業高校、浜松工業高校の3校にて、校友教員により工学部をPR
- 常任幹事会 (於：静岡市内 令和7年12月6日(土))

- 東東海支部西部地区支会  
(於：浜松市内 令和8年1月11日(日))
- 東東海支部総会  
(於：静岡市内 令和8年1月31日(土))

### ● 次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)

- 高校生向け進学説明会の拡大  
校友教員による工学部説明会の対象校を拡大する。
- 学生支援策のご提案  
(学生のため支部として可能な支援策・アイデア等)
- インターンシップ、企業説明会の拡大  
(於：静岡県内)  
主に静岡県内への就職を希望する在学生を対象に、インターンシップ・企業説明会等をより効果的な時期に実施し、校友と在校生の交流機会を拡大する。

## 四国支部

香川県高松市屋島西町1932-9  
(株)数内建設内 ☎087-843-2233



### ● 役員

支部長 藪内 清二(建築33)  
※香川支会 会長兼任  
事務局長 松岡 慎哉(建築37)  
徳島支会 藤原 賢治(建築36)  
高知支会 堅田 八成(土木25)

### ● 支部長

藪内 清二  
(建築 33 回卒)

### ● 今年度の活動結果

四国支部総会を城座校友会会長をお迎えして19名の出席で開催しました。

9年ぶりの高知県校友会を6月14日に6名で開催し、香川県校友会は4月3日に9名で開催しました。

定例会の一木会は毎月第一木曜日に高松三越東側の居酒屋「はんぶん」で開催しております。

校友皆様のご参加をお待ちしております。

### ● 次年度への抱負

残り2県の校友会開催へ向けての四国支部からのアプローチを引き続き行っていきます。

四国から全学部での入会者が80名程度で地域内企業への就職者もなく、転勤してこられた方の掘り起こしに努力していきたいので情報があればご連絡ください。



四国支部総会



高知県支部総会

## 九州支部

福岡県福岡市博多区板付4-6-33  
(株)北洋建設内 ☎092-589-0151(脇山)



### ● 役員

支部長 上田 勝(土木28)  
副支部長 上村公仁隆(建築28)  
事務局長 脇山 亨治(建築29)  
会計 齊藤 正司(建築36)

### ● 支部長

上田 勝  
(土木 28 回卒)

### ● 今年度の活動結果

今年度、九州支部の活動は毎月第三木曜日のアカシヤ会を続けながら10月17日の九州支部総会の開催という1年間で。総会には城座会長にもおいで頂きとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。今年の会場はオープンして間もない「ワンビル福岡」という新しくできたビルの中の福岡で一番新しいホテルで行いました(博多もんは新し物好き)。福岡の中心のシンボリックな建物が建て替わり時代の変化を身をもって感じました。その翌週に開かれた母校を訪ねる会に事務局の脇山君の協力を得て、お酒の協賛をさせてもらいました。初の試みでしたが参加の校友の方々にはきっと喜んでもらえたと思っています。この醸造元のお

酒は日本で今一番新しい某クルーズ船Ⅲや、世界的に有名な某ホテルでも提供されているそうです(脇山談)。

### ● 次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)

毎年感じることは、総会やアカシヤ会に若い方の参加をぜひお願いしたいということです。きっとこの会報は校友の方に送付されていると思います。この文面を見られた九州の校友の方ぜひご参加を。気楽に参加できるようにアカシヤ会は参加不参加の出欠を取っていませんので九州支部の事務局にどこでやっているのってお問い合わせください。だいたい天神ビルの地下1Fのキリンで毎月第三木曜日の18時半からアカシヤ会をやっていますが、たまに予約が取れないときがあるので初めての参加の方は前もってお問い合わせください。参加者の平均年齢を下げたい!



アカシヤ会



九州支部総会



● **支部長**  
**阿部 英敏**  
(工化 33 回卒)

● **支部構成**

- ・北海道支部
- ・福島支部
- ・青森支部
- ・静岡支部
- ・山形支部
- ・茨城支部
- ・新潟支部
- ・長野支部

● **役員名簿**

- |      |                     |                     |                     |                     |  |
|------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--|
| 支部長  | <b>阿部 英敏</b> (工化33) |                     |                     |                     |  |
| 副支部長 | <b>大木 健一</b> (土木46) |                     |                     |                     |  |
| 相談役  | <b>関根 敬次</b> (建築16) | <b>永田 進</b> (建築22)  | <b>横尾 聡</b> (建築28)  |                     |  |
| 事務局長 | <b>田畑 剛</b> (建築52)  |                     |                     |                     |  |
| 常任幹事 | <b>久保田幸正</b> (建築19) | <b>渡邊 秀雄</b> (機械20) | <b>大澤 俊幸</b> (土木27) | <b>豊島 隆幸</b> (電気27) |  |
|      | <b>伊藤 満</b> (建築30)  | <b>渋谷 栄一</b> (工化31) | <b>小林 道雄</b> (土木47) | <b>宮崎 拓也</b> (土木49) |  |
|      | <b>小林 邦之</b> (電電52) | <b>大石 祐太</b> (建築61) | <b>紅林 達哉</b> (建築62) | <b>千葉 健寛</b> (建築65) |  |
|      | <b>安彦 宗哲</b> (機械65) | <b>中山 智博</b> (土木66) | <b>吉村 恵太</b> (電電66) | <b>山本 陽介</b> (電電67) |  |

教員部会は『優秀な高校生を母校に送ろう!』をモットーに校友教員相互の懇親・交流活動を行っている。活動を通して、母校の活性化と高校教員を希望する学生の支援と育成を目指しています。本年度より会長 阿部英敏(工化33回) 副会長 大木 健一(土木46回)、事務局長 田畑 剛(建築52回)が就任し、新体制となりました。よろしく願いいたします。

● **今年度の活動結果**

- ・各支部において総会
- ・8月：オープンキャンパス参加及び「高校教員と大学との意見交換会」参加  
大学・校友会協力を仰ぎ、大学オープンキャンパス参加の助成していただき、本学に好意的な他大学出身の教員にも働きかけている。
- ・12月：学術研究報告会への参加・意見交換・交流

● **次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)**

- ・オープンキャンパスへの参加
- ・学術研究報告会への積極的な参加
- ・学生、卒業生の教員採用試験合格に向けた支援
- ・入試に向けての高校生、保護者、高校教員への積極的 PR

● **学生支援策のご提案 (学生のため支部として可能な支援策・アイデア等)**

教員を志望する学生への積極的な支援 (講師派遣や、教職採用選考試験に向けての指導及び情報提供)

● **地域でのトピック**

- ・今年度、新規5名に校友高校教員が誕生し、その3名(木村尚希さん(電電67回)、内山瑛穂さん(電電73回)、八巻心優さん(生命73回))が、校友会総会に参加し、決意と大学への貢献を新たにしていました。
- ・今年の10月に全国教員支部総会が静岡県支部の好意により静岡県支部総会と共催という形で開催されました。来賓として城座校友会会長はじめ大学関係者からご臨席を賜り、県外支部会員の参加もあり、活気のある支部総会となりました。文科省教科書調査官の油井敏和さん(建築45回)より講話をいただくなど実りあるものになりました。会員一同、家族大学として活気あふれる工学部を校友教員として支え、盛り上げていきたいと確認し終了しました。



油井先生講演会様子

## 学生募集にご協力をお願いします

工学部校友会は教員部会と協力し学生募集に寄与しています。

日本大学工学部は学びのパフォーマンスが高い。  
つまり「まなパ」がいい大学です。

強力な卒業生ネットワーク「127万人(日本大学) / 6.6万人(工学部) 2025年4月現在」

### 将来の選択肢が広がる、6つの学科

<b>土木工学科</b>	<b>電気電子工学科</b>
インフラ コンクリート 交通システム 地震・防災 河川と水環境 地盤 土木史・景観	電子デバイス フォトニクス ワイヤレス 医療応用 エネルギー 電力/計測制御
<b>建築学科</b>	<b>生命応用化学科(旧 工業化学科、物質化学工学科)</b>
建築材料・構造・施工 環境・設備 まちづくり 医療・福祉建築 住環境 建築歴史・意匠	有機材料 無機材料 環境工学 分析・分光 生命工学 ライフサイエンスリソリューション
<b>機械工学科</b>	<b>情報工学科</b>
エネルギー 流体 ロボット 計測・診断 機械設計 自動車 機械材料 バイオメカニクス	情報ネットワーク ソフトウェア 知能情報 メディア 環境情報

工学部ホームページより参照

「学生たちのリアルな日常を配信中!」  
工学部のLINE & Instagramを是非フォローお願いします!



LINE



Instagram



工学部  
ホームページ



## 校友の皆さまへ ～猪苗代湖のラムサール条約 湿地承認登録～

特定非営利活動法人  
輝く猪苗代湖をつくる県民会議  
理事長 藤田 豊 (土木 20 回卒)

猪苗代湖が昨年 7 月、ラムサール条約湿地として承認登録されたという知らせは、恩恵を受けている私たちにとってはもちろん、多くの校友の皆さまにとっても誇らしい出来事であったのではないのでしょうか。しかし、この登録は決してゴールではありません。むしろ、世界から「この湖を託された」という、新たな責任の始まりであると私たちは受け止めています。

本湖は、福島県のほぼ中央に位置し、秀峰の磐梯山を背景とした極めて美しい景観を有する清澄な湖で、治水・利水・環境の機能を持っております。古くから自然とともに地域の人々の暮らしを支え、特に明治以降の安積疏水の開削は、郡山市の発展や農業、生活用水の確保に大きく寄与してきました。現在もなお、本湖の清澄な水は地域の礎となっております。

一方で、猪苗代湖の水質は平成 8 年頃から徐々に変化し始めました。かつて湖心の水素イオン濃度は pH5 程度の酸性でしたが、次第に中性化が進み、現在は pH6.8 となっています。それに伴い生物多様性は実現されましたが、COD（化学的酸素要求量）は、平成 4 年から 7 年にかけて環境省の評価で 0.5mg/L と全国一位の清澄さを誇っていたものが、現在は 1.6mg/L へと徐々に上昇し、全国的な順位は大きく下がりました。

こうした状況に危機感を抱き、平成 26 年、日本大学名誉教授である中村玄正先生を中心とした有志により、私どもの NPO 法人が設立されました。活動目標は四つの柱から成り立っていますが、特に力を注いでいるのが県民参加による水質改善活動です。種々の調査の結果、水質汚濁の一因が、湖北部の浅水域に繁茂する水草であることが判明しました。水草は生育中には水質浄化に寄与しますが、問題は枯死後です。とりわけ西風が卓越する 9 月末から 11 月上旬にかけて東岸へ漂着し、除去しないとそのまま腐敗することで、水質汚濁を引き起こします。

このため、県および周辺二市一町と連携し、ボランティアの皆さまの協力を得て、漂着水草の回収・湖外除去を継続して実施しています。活動は、会員の会費、企業・個人からの寄付金、各種助成金に支えられており、心より感謝申し上げます。

この度のラムサール条約登録を契機に、本湖は「世界の猪苗代湖」として、国内外から訪れる人々を迎える存在となりました。当法人としても、その責任の重さを深く自覚し、関係自治体、支援団体、ボランティアの皆さま

とともに、緊張感をもって活動を続けてまいります。また、次代を担う若い世代へ、より美しい姿のまま湖を引き継ぐことも重要な使命です。

ラムサール条約は 1971 年、イランのラムサール市で採択され、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地」の保全と「賢明な利用」を目的としています。日本ではこれまで 55 か所が登録されており、猪苗代湖は福島県では尾瀬に次いで 2 例目となります。

私ども NPO は今後、小中学生や高校生を対象とした環境教育や体験活動にも力を入れ、生物多様性の視点からも「湖を守る人材の育成」にも取り組んでまいります。100 年後も語り継がれる湖であること、それこそが最大の環境保全であると考えています。

結びに、校友の皆さまにはぜひ一度、世界の猪苗代湖を訪れていただきたく存じます。来県の折には、会津地域の歴史や裏磐梯の自然に触れ、白鳥丸で湖上からの景観を楽しまれることを願っております。また、当 NPO へのご意見・ご提案を、ぜひホームページまでお寄せください。

■ホームページ：

[https://  
inawashiro-mizukankyo.com/](https://inawashiro-mizukankyo.com/)



ドローンによる北部水域全景  
(ヒシ群の繁茂状況)



漂着水草 (天神浜)



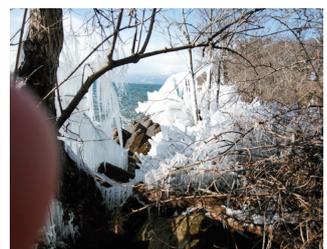
ボランティアの方々による  
漂着水草回収作業



ヒシ回収活動 (白鳥浜)



静謐を湛える猪苗代湖の夕暮れ



磐梯山を遠景に望む“しぶき水”



## 北米大学で ジャズを教える

作編曲家、指揮者、音楽芸術学博士  
ウィットマン大学音楽学部客員助教授  
渡邊 晋 (電気43回卒)

皆様こんにちは。私は主にジャズや管弦楽、吹奏楽の作曲や編曲といった音楽制作や演奏活動を行いつつ、現在はワシントン州ワラワラ市にあるウィットマン大学というリベラルアーツカレッジで音楽教育に従事しています。

小学校5年生時にトランペットの演奏を始めて以来、中学高校では吹奏楽部に、工学部ではモダンジャズ研究会に参加して、音楽中心の学生生活を過ごしました。工学部を4年と半年掛けて卒業後、縁あって某有名ジャズバンドの音楽事務所に入所し音楽ビジネスの現場に触れつつ、何年かの準備期間を経て、99年1月にマサチューセッツ州ボストン市にあるバークリー音楽大学へ入学するため渡米しました。バークリーでは最高の環境で音楽教育を受け、2年と半年で2つ目の学位を取得し、後にニューヨーク市立大学とネブラスカ大学の大学院で修士、博士を取得しました。

渡米以来北米在住ですが、一時帰国の折には、主宰しているジャズオーケストラ「東京ブラスアートオーケストラ」で公演や録音を行ったり、マスタークラスやバンド指導といった活動もしています。建築学科を卒業後日本で研鑽を重ね、ベース奏者として大活躍されている西嶋徹氏は、学年が一つ後輩にあたり、25年ぶりに共演を果たしたのは大きな喜びとなりました。



東京ブラスアートオーケストラ  
前列1番左が私、その後ろがベース奏者で校友の西嶋徹氏(建築44回)

2020年には世界初の試みとして、日本の雅楽に使われる笙(しょう)という楽器をフューチャラした「笙とジャズオーケストラの為にコンチェルト」 という作品を制作、日本を代表する現代笙奏者である真鍋尚之氏を招聘して、ネブラスカ州リンカーン市で初演しました。近年では前職アーカンソー大学にて同僚であったジャズギター奏者の Jake Hertzog 氏と「オザーク協奏曲：ジャズギターとオーケストラの為に」を共同制作、初演、録音し、ニューヨークの ZOHO Music というレコードレー

ベルから昨年の春に発売されました。

さて、ウィットマン大学があるワラワラ市は、州都シアトルから車で4時間程の距離で、オレゴン州との境界に接した州南東部に位置し、年間を通じて日照時間が長く降水量の少ない気候はぶどうの栽培に適しており、ワインの生産が大変盛んで、人口は3万人程度と小さいながらも活気のある良い町です。1859年に神学校として開学されたウィットマン大学は、1882年に4年制大学となり、現在は学生数1,500名、教員数200名といった規模の私立大学です。2024年の夏から客員助教授として着任し、3つのジャズアンサンブルと吹奏楽のクラスに加えて「音楽理論」や「ジャズ史」、「ジャズとメディア」といったクラスを担当しています。



2024年4月アーカンソー大学芸術センターにてオザーク協奏曲を世界初演

多くの北米大学では、社会科学や理工学等を専攻する学生であっても、音楽を含む芸術系のクラスを履修することができ、実際私のクラスには多くの音楽専攻以外の学生がいます。そういった若い世代の人々にとって、芸術や文化を学ぶ機会が如何に大切であるかということ、今まで以上に強く感じています。

アメリカが生んだ最大の芸術文化の一つであるジャズという音楽は、20世紀初頭に生まれた後、様々な影響を受け、与えつつ発展を続けてきました。その歴史はアメリカ近現代史そのものであり、私が体験してきた過去25年程の間だけでも、実に多くの歴史的出来事が起き、音楽とそれを取り巻く政治、経済、社会、教育環境は大きな変化を遂げてきました。

そういった中、ジャズや音楽を学ぶということは、単にそのスタイルや技法を習得するだけでなく、芸術や言語、歴史を知ることを通じて、それらに関わった沢山の人の足跡を辿ることであり、他文化や異なった価値観、倫理観に関心を持ち、理解尊重できる人間性を育てていくことに他なりません。これこそが、真にリベラルアーツ教育の目的であり、日本人である私とその職を任され、責任の大きさと学生達と共に学ぶ時間の尊さを感じながら、充実した日々を過ごせることは、誠に幸せなことであると思うのです。

# 校友レポート



## 「星の降る里」の市長として

北海道芦別市 市長

北村 真 (土木 50 回卒)

皆様こんにちは。北海道芦別市で市長を務めております北村真と申します。2015年の統一地方選挙で市議会議員に初当選し、その後、三期目の途中で市長選に挑戦し、無投票にて当選の栄を浴し、2025年2月26日に就任いたしました。市長に就任して一年が経とうとしておりますが、その間、市政の重さと向き合う日々の連続であり、地域の未来を託される責任に身の引き締まる思いを抱きながら日々の業務にあたっています。人口減少や産業転換など、地方都市特有の課題は決して軽いものではありませんが、だからこそ、一つひとつの判断が市民生活へ直結し、その分やりがいも大きいと感じています。



北海道市長会総会での市長就任挨拶時の様子

### ■大学時代の思い出

私が日本大学工学部土木工学科へ入学したのは1998年の春でした。右も左もわからない地方出身者としての不安はありましたが、大学生活はとても刺激的で、多くの出会いと学びに満ちていました。土木工学科は実習が多く、単位も取りづらく、厳しい環境の科であることを先輩から教えていただけておりました。特に印象に残っているのが測量の実習や合宿です。校内や山林を舞台に、測量機器を担ぎながら仲間と歩き回りました。角度や距離を測り、その後の計算を行い図面に落とし込む際、なかなか思うような結果にならず、測量や計算を何度もやり直すことも何度もありましたが、その過程で培われた忍耐力や協働の精神は、今も私の原点として大切にしています。

学業のほかでは、高校時代から続けていましたラグビー部に所属しておりました。厳しい練習の日々で、仲間と信頼し合い、一つの目標に向かって団結する経験ができたことは、社会に出てからも大きな財産となっております。試合後に泥だらけ、傷だらけでの身体で仲間と語り合ったり、先輩方に厳しいご指導をいただきながら行った反省会の時間などは、懐かしい思い出とともに今も脳裏に浮かびます。さらにありがたいことに、当時の先輩・同期・後輩とは今でもたまに会うなどの関係が続いており、忙しい日々の中で互いの近況を語り合

う時間は、私にとって大学時代を思い出し、当時の関係性に戻れる大切な心の拠り所です。

大学時代のこうした経験は、現在の市政運営において大きな支えとなっています。土木工学で学んだ“地域を支える基盤”の考え方は、まちづくりの本質を理解する上で重要な視点です。そしてラグビーで培った“前へ進む力”と“仲間と支え合う姿勢”は、困難に直面する場面で私を奮い立たせてくれます。

### ■芦別市の紹介

芦別市は北海道のほぼ中央に位置し、雄大な自然に囲まれたまちです。かつては炭鉱のまちとして大きく発展しましたが、閉山後は人口減少や産業の空洞化など厳しい時代を経験してきました。しかし、その一方で、豊かな自然環境と温かい市民の気質は変わらず、まちの大きな魅力として息づいています。

芦別市は「星の降る里」というキャッチフレーズを掲げています。夜空いっぱい広がる満天の星は、市内外の人々を魅了し、今では観光の大きな柱の一つにもなっています。また、市内には温泉、豊かな森林など、多くの自然資源があり、四季を通じて楽しめる地域です。また中山間地域という環境の中でお米やメロンなど高品質な農産物が生産されており、昨年開催された第64回農林水産祭において、お米の輸出などを手掛ける地元の農業法人が多角化経営部門で天皇杯を受賞するという、芦別市にとって大変栄誉ある出来事もありました。

これからも、限られた財源の中でも市民の暮らしを守り、子どもたちの未来をより良いものにするために、小さな自治体だからこそその市民と行政が近い距離で向き合いながら、地域の未来をつくっていきけるまちづくりを進めていきたいと考えております。

### ■おわりに

振り返れば、将来の姿など何も見えていなかった学生時代でしたが、目の前の学びや仲間との時間に全力で向き合った日々が、今の自分を支えています。日本大学で過ごした時間は、立場や肩書きが変わった今も、私の原点であり続けています。在学生の皆さんには、ぜひ今しかない大学生活を大切に、それぞれの道へと力強く歩いてほしいと願っています。また、これからも、芦別市を日本だけでなく世界からも「選ばれるまち」「誇れるまち」にするため、誠心誠意、市政運営にあたりたいと考えておりますので、皆様におかれましては芦別市を知っていただき、訪れていただけたら幸いに存じます。



高橋慶彦さんとの稲刈り

※本市の出身で、元プロ野球選手で広島東洋カープなどで活躍された高橋慶彦さんを、「星の降る里あしべつ応援大使」として委嘱しております。

# 日本大学工学部が推進する産学官連携活動 その9

## ロハス工学の歩みと展開



日本大学工学部  
工学研究所長兼ロハス工学センター長  
土木工学科 教授 岩城 一郎

### はじめに

校友の皆さま、本年もどうぞよろしくお願いいたします。  
昨年も、ロハス工学に関する研究・教育・地域貢献の取り組みは、着実に前進させることができました。その結果、ロハス工学の活動は一つの安定期に入ったものと受け止めています。これは、ロハス工学が目指してきた「健全で持続可能な状態」に確実に近づいていることを示すものと言えるでしょう。本報では、この1年間に取り組んできたロハス工学の活動についてご紹介いたします。

### ロハスの森「ホール」の運用

令和元年東日本台風で被災したロハスの家群跡地に整備されたロハスの森「ホール」は、整備段階を終え、現在は運用段階へと移行しています。特に、学生から本施設を活用したいとの要望が数多く寄せられたことを受け、オープンキャンパスや北桜祭などの各種イベント時に開放し、コーヒーや軽食を楽しみながら施設の雰囲気を感じてもらえる機会が増えてきました。

昨年末には、学生運営による期間限定カフェが開設され、多くの学生で賑わいました（写真参照）。カフェでは、「ロハスの畑プロジェクト」を通じて収穫されたサツマイモを用い、学生が企画・調理したスイーツポテトが提供され、大きな成果を上げることができました（写真参照）。



学生運営による期間限定カフェ



ロハスの畑プロジェクトを通じて収穫されたサツマイモを用いたスイーツポテト

これらの取り組みは、主に学生側からの提案を起点として実現したものであり、学生主導型ロハス工学の望ましい姿を示す好例と言えます。今後も、このような活動を積極的に後押しし、次年度以降の「ホール」の本格運用へとつなげていきたいと考えています。

### 書籍『ロハス工学』増補改訂版の発刊に向けて

工学部では、研究・教育のスローガンとして「ロハス工学 (LOHAS Engineering)」を掲げてから、四半世紀を迎えました。ご存知の通り、LOHASとは *Lifestyles of Health and Sustainability* (健康で持続可能な生活様式) の略語であり、現在では社会に広く浸透した概念となっています。本学部では、この考え方をいち早く教育・研究の柱に据え、実践を積み重ねてきました。

その成果として、2019年2月25日に『ロハス工学』初版を刊行しました。それから7年が経過し、社会情勢や技術環境が大きく変化する中であっても、研究は着実に進展し、新たな知見や実践事例が数多く蓄積されてきました。こうした背景を踏まえ、このたびロハス工学に基づく最新の研究成果や知見を加えた『ロハス工学』増補改訂版を発刊する運びとなりました。

思い返せば、この7年間で本学部およびロハス工学を取り巻く環境は大きく変化しました。2019年10月に発生した令和元年東日本台風（台風19号）では、日本大学工学部キャンパスが広範囲にわたり浸水する甚大な被害を受けました。ロハスの家群も浸水被害を免れることができず、やむを得ず解体・撤去することとなりました。

そのような中、本学部は被災直後から郡山市と連携し、「キャンパス強靱化プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトでは、浸水被害の実態把握や発生メカニズムの解明に加え、学生の避難行動パターンの分析、キャンパス内における避難所設置の具体策などについて研究を進め、その成果を2020年開催の「第9回ロハス工学シンポジウム」において発表しました。

さらに2020年初頭からは、新型コロナウイルス感染症

(COVID-19) の感染拡大という未曾有のパンデミックに直面しましたが、本学部ではロハス工学に基づく研究と実践を止めることなく推進してきました。「ロハス工学センター」を設置し、その中で「ロハスの家群跡地再生プロジェクト」を始動させました。

教職員のみならず学生も参加するワークショップを重ねながら、「ロハス工学」を体感できる新たな研究・交流拠点のランドデザインを構築しました。その結果、日本大学工学部キャンパス内の一画を「ロハスの森」と命名し、本学部・浦部智義教授、はりゅうウッズスタジオ・滑田崇志氏をはじめとする多くの関係者の尽力により、ロハスの森「ホール」が完成しました。あわせて周辺環境の整備も進められており、学生・教職員のみならず、地域に開かれた場としての活用が期待されています。

本書は、日本大学工学部の各専門分野の研究者が、ロハス工学のさらなる発展に資する研究成果を取りまとめたものです(表参照)。

改訂版「ロハス工学」目次案	
はじめに	コラム
第1編 序論	・天草インターンシップ
第2編 ロハス工学の役割	・地域連携における場づくり
1章 ロハスと土木	・デジタルツールを活かした諸活動
2章 ロハスと建築	・機械工学モノづくり工房
3章 ロハスと機械	・エネルギーコンテスト
4章 ロハスと電気・電子	・ロハスの箱庭
5章 ロハスと化学・バイオ	・日本のエネルギー問題
6章 ロハスと情報	・猪苗代湖の水質
7章 ロハスと再生エネ	・情報ソフトウェア作品コンテスト ・小学生向けプログラミング教室
第3編 ロハス工学の実践	・地域のインフラはみんなで守る
1章 ロハスの森ホール	
2章 ロハスのトイレ	おわりに
3章 古川池	
4章 ロハスの光	
5章 ロハスのソフトウェア	
6章 ロハスと地域	
7章 医療	

第1編では、ロハス工学の礎を築かれた加藤康司先生に、その歴史と意義を俯瞰的にご執筆いただいています。第2編では、「ロハスと土木」「ロハスと建築」「ロハスと機械」「ロハスと電気・電子」「ロハスと化学・バイオ」「ロハスと情報」「ロハスと再生可能エネルギー」といった分野ごとに最新の研究成果を整理し、ロハス工学の具体的な役割を示しました。

第3編では、ロハスの森「ホール」の詳細に加え、「ロハスのトイレ」「古川池」など、教育・研究・社会実装が結び付いた具体的な取り組みを紹介しています。さらに、熊本県天草における地域づくりや、医療の視点からロハスの概念を具現化する実践についても取り上げました。また、各章の間には多くの研究者や学生によるコラムを配置し、ロハス工学の広がりと多様性を伝えています。

人口減少社会を迎える日本が、今後も健康で持続可能な社会であり続けるためには、一人ひとりが自らの役割を考

え、主体的に行動していくことが不可欠です。本書が、中・高校生、大学生、大学院生をはじめとする次世代を担う方々にとって、その第一歩となることを願っています。最後に、本書の刊行にあたり、ご協力いただいた日本大学工学部内外の多くの関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

### 『日本のインフラ危機』の発刊

私事ではありますが、単著『日本のインフラ危機』を、昨年12月25日に講談社現代新書より刊行しました。本書は、私が日本大学に赴任して以来、20数年にわたりインフラメンテナンス研究に携わる中で蓄積してきた知見を余すところなくまとめたものであり、集大成と位置付けられる一冊です。その根底には、ロハス工学の思想が一貫して流れています。

本書では、インフラや土木といった市民にとって分かりにくいテーマについて、新書という幅広い読者層に届く媒体を通じて、その現状と将来像、そして解決策を伝えることを目的としています。年明け以降は、新聞・雑誌・YouTube・ラジオなど、さまざまなメディアを通じてPRに努めており、一定の手応えを感じています。

こうしたPR活動を進める中で改めて実感するのは、市民がインフラや土木について驚くほど知らないという現実です。これは、私たち研究者・技術者が、インフラや土木の重要性を市民に向けて十分に発信してこなかったことの裏返しでもあります。

現在、日本全体の人口減少、とりわけ地方における少子高齢化の加速は、大学教育にも顕著な影響を及ぼし始めています。本学部もその潮流の中にあると言ってよいでしょう。この状況を打開するためには、学部を挙げた広報活動が不可欠である一方、工学の重要性と魅力を、さまざまな媒体を通じて市民に伝えていく努力を怠ってはなりません。私は、自身の専門分野であるインフラや土木、そしてロハス工学を市民に伝える役割を強く意識し、微力ながら残りの教員生活を全うしたいと考えています。

### おわりに

ここでは書き尽くせませんでした。ロハス工学に関する取り組みは、「ロハスの〇〇プロジェクト」といった形で、本学部の教職員のみならず学生の間にも着実に広がりを見せ、市民の皆さまからも徐々に認知されつつあると感じています。

こうした流れを、校友の皆さまのお力添えをいただきながらさらに発展させ、最終的には「ロハス工学」を、16学部と1短期大学から構成される日本大学のスケールメリットを生かし、「ロハス学」へと発展させていくことが、私の悲願であり、本学部の目指すべき姿であると考えています。

本年も、皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

参考資料：

[https://www.instagram.com/nihonuniv\\_kougakubu/](https://www.instagram.com/nihonuniv_kougakubu/)

<https://www.kodansha.co.jp/book/products/0000421905>

<https://www.kodansha.co.jp/book/products/0000421905>

0000421905

## 若葉マーク 頑張り記

### 「社会人一年目」に思うこと

#### 株式会社クレスコ システムエンジニア

栃本 涼 (情報 27 回卒)

私は現在、株式会社クレスコに入社し、ソリューション開発に関わる業務に携わっています。工学部で情報系を学び、システムエンジニア (SE) として社会に出て一年目を迎えました。学生時代は「SE といえば、ひとつのシステムを長期間かけてじっくり作り込む仕事」というイメージを持っていました。腰を据えて設計し、機能を少しずつ改良していくような働き方を想像していたのです。

しかし実際に配属されてみると、そのイメージは良い意味で大きく裏切られました。私の所属する部署では、短期間で開発し、短期間で納品することが多く、長くても二か月、短いものでは一か月に満たない期間で開発を行うこともあり、この一年で触れた技術分野は想像以上に幅広いものでした。最初の印象とは 180 度、いや 360 度違う環境でしたが、「0 から 1 を作ること」が好きな私にとっては、とても刺激的で面白い職場です。

そんな中、入社してまず強く感じたのは、学生時代との「責任の重さ」の違いです。学生の頃は自分の課題が中心でしたが、仕事では自分の作業一つひとつがチームやお客様につながっています。自分では理解しているつもりでも、相手に正確に伝わらないことも多く、「伝える力」の難しさを日々痛感しています。

また、IT 業界では在宅勤務など多様な働き方が広がっていますが、私はできるだけ出社し、対面でのコミュニケーションを大切にしています。何気ない雑談の中から学ぶことも多く、他部署の方とも自然と関わる機会が増え、直接顔を合わせて話すことの大切さを実感しています。昼休みにキッチンカーや周辺の飲食店を巡ったりすることも、社会人生活の小さな楽しみです。人とのつながりが希薄になりがちな時代だからこそ、こうした時間の価値をより強く感じるようになりました。

この一年を通して実感したのは、「SE とは作り続ける人ではなく、変化に対応し続ける人なのではないか」ということです。決まった技術を使い続けるのではなく、必要になった技術を自分から学びに行く姿勢が常に求められます。今後は、「この分野なら栃本に聞けば分かる」と言ってもらえるような、自分なりの強みとなる技術領域を一つ持つことを目標にしています。

これから社会に出る後輩の皆さんには、学生のうちに多くのことに挑戦してほしいと思います。失敗も遠回りも、すぐには意味が分からないかもしれませんが、その経験は必ずどこかで自分の力になります。私自身、学生時代の試行錯誤や人とのつながりが、今になって思いがけない形で仕事に生きています。社会人一年目の「若葉マーク」だからこそ、素直に学び続ける姿勢を忘れず、これからも一歩ずつ成長していきたいと思っています。



## 音楽都市こおりやまでの市民活動

### ~100回目を迎えた郡山室内楽興会 「日曜夕べのリサイタル」~

武田 洋之 (工化 25 回卒)



私は昭和 52 年に工業化学科 (現生命応用化学科) を卒業しました。学生時代は吹奏楽部に所属していました。当時は就職難で初年度は民間会社を転々とし、

不安を感じる日々に公務員には憧れても採用は夢の夢でした。そんな時、父の同僚が市の採用試験の願書を持って来られ、無下にもできず受験したところ幸運にも合格。大学で学んだ知識を活かせる職種 (水道局) にも就くことができました。採用後十数年は悩みもありましたが、癒してくれたのは家族や音楽と演奏する仲間でした。オーケストラや吹奏楽などの演奏会はプロ・アマを問わず開催されていますが、室内楽の演奏会となるとその名曲の数と比べても少ないと感じ、フルート・クラリネット・サクソの 3 人で平成 4 年に「郡山室内楽興会」を結成しました。「協」ではなく「興」としたのは、「室内楽の演奏会を興す」「興

味をもって欲しい」という意味を込めました。私は会代表・クラリネットを担当、メンバーには工学部同期の渡辺雄一君 (フルート: 建築 25 回) も参加しており校友のつながりを大切にしています。会結成 3 年後には入場無料の「日曜夕べのリサイタル」を年 3~4 回のペースで郡山市民会堂をメイン会場に開催し、近年活動が評価され郡山市民活動顕彰事業である「まちづくりハーモニー賞 (令和 5 年度: 市民活動実践部門)」をいただく栄誉と、令和 7 年 9 月には、三味線演奏者のゲストも招いて 100 回目のリサイタルを迎えることができました。ひとつの節目を迎えましたが、多くのお客様と賛助出演して下さった方々に感謝しながら、来る 3 月 1 日には 101 回、7 月 5 日は 102 回目を予定しています。これからも郡山室内楽興会をよろしくお祈りします。



リサイタルの様子



メンバーと (左端: 渡辺雄一)



楽興会ホームページ

## 各種イベントご協力の御礼

母校を訪ねる会及び学生食堂特別提供メニューに対して以下の校友の方々にご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

● 齋藤正美様 (建25・石巻市長)

母校を訪ねる会抽選会景品 (かまぼこ詰合せ) として株式会社白謙かまぼこ店を、学生食堂特別提供メニュー (さんま定食) として株式会社ヤマホンベイフーズをそれぞれご紹介いただきました。

● 上田勝様 (土28・九州支部長)

母校を訪ねる会協賛品として「佐嘉酒造 日本酒 2 ダース・焼酎 1 ダース」をご提供いただきました。

● 脇山亨治様 (建29・

RFG地域みらいグループ「佐嘉酒造(株)」・(株)北洋建設

母校を訪ねる会協賛品として「佐嘉酒造 焼酎 1 ダース」をご提供いただきました。

● 渡辺潤様 (機55・株式会社あぶくまビール)

母校を訪ねる会懇親会場にてクラフトビールをご提供いただきました。



## 校友会支援一覧

校友会では以下の支援を行っています。

支援項目	内容
学生支援	開講式での昼食・弁当代支援
	卒業研究発表後の懇親会費用支援
	学生食堂での食材購入支援及び特別メニュー (R7はさんま定食) の提供
	リーダーズキャンプの開催費用補助
	「校友会賞」の表彰 (体育会・学文連・北桜祭実行委員会・オープンキャンパス実行委員会の各委員長等)
	ロハスの森カフェ「イルミネーション」費用支援
課外活動支援	体育会・学文連所属のサークルへの「課外活動支援金」
北桜祭支援	閉祭式での打ち上げ花火費用支援
	新☆エネルギーコンテストでの校友会賞表彰
記念品の贈呈	入学及び卒業記念品の贈呈
卒業式関連	学位記授与式及び卒業記念パーティー会場費支援
就学支援	経済的理由で就学困難となった学生・大学院生への経済的支援 (給付型奨学金)
就職支援	就職指導課との連携で学生向けに校友企業の求人情報を提供
	教員採用試験受験学生への交通費支援
	卒業後、教職に就く卒業生 (新卒者) への「教諭奨励賞」の贈呈
学術研究発表支援	学術研究報告会にて発表を行う校友に対して「発表支援金」を支援
	学術研究報告会会場にカフェコーナーを設置し来場者にコーヒーを提供
	大学院生への学協会出席の交通費補助

日本大学工学部校友会員各位

令和8年3月1日  
校友会会長 城座 隆夫

## 令和8年度 通常総会通知

本学会則第11条により、日本大学工学部校友会令和8年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時／令和8年4月25日(土) 13時より
2. 場 所／日本大学工学部 50周年記念館 3階
3. 議 題／(1) 令和7年度会務報告および決算報告  
(2) 令和8年度事業計画および予算審議  
(3) 役員改選  
(4) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催



※但し、変更等が生じた場合はホームページに掲載または事務局にて対応致します。

## 第43回 母校を訪ねる会

開催日／令和8年(2026年)10月25日(日)

場 所／日本大学工学部 50周年記念館を予定

対 象／第14回卒(昭和41年3月卒) 第44回卒(平成8年3月卒)  
第19回卒(昭和46年3月卒) 第54回卒・情報第10回卒(平成18年3月卒)  
第24回卒(昭和51年3月卒) 第64回卒・情報第20回卒(平成28年3月卒)  
第34回卒(昭和61年3月卒)

大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第76回北桜祭も開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報下さい。できる限り応援致します。

※対象学年の皆様には改めてご案内状を発送(8月中旬予定)させていただきます。また、対象学年に関わらずご参加いただくこともできますので、ご希望の方は校友会にご連絡下さい。

## 住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報をお願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

お問合せ  
フォーム



### 写真部



大学写真部(石塚智也部長)の皆様より表紙・裏表紙の写真を提供していただきました。発行に際しご協力いただきましたすべての皆様に対し、校友会より感謝申し上げます。

## 校友会報 第89号

発 行 者 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327  
URL : <https://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 12,000部  
発行日 令和8年3月1日  
発行責任者 校友会会長 城座 隆夫  
編集責任者 広報委員長 千代 貞雄

